

学年別おすすめ 2017

5・6 年生



津島市立図書館

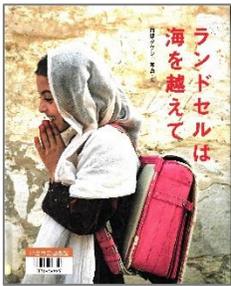
図解絵本東京スカイツリー モリナガヨウ/作・絵 ポプラ社 K526モ



📖 知識

2017年で、開業から5年を迎える東京スカイツリー。電波塔（テレビやラジオなどの電波を発信する塔）としては世界一の高さを誇るこの建物は、いったいどのように作られたのでしょうか？
候補地やデザインの決定から実際の工事の様子まで、取材に基づいてしっかりと書き込まれたイラストで、わかりやすく解説します。

ランドセルは海を越えて 内堀タケシ/写真・文 ポプラ社 K376フ

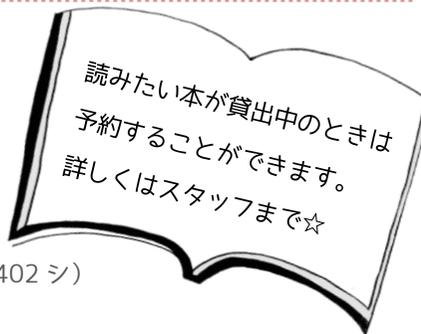


📖 知識

日本では小学校に入学する時に、当たり前のように準備するランドセル。6年間ともに過ごしてきたランドセルを、戦争が続いているアフガニスタンに贈る活動があります。
日本からやって来たランドセルは、子どもたちにとっては宝物。子どもたちは何を思い、学校に通っているのか、写真を通じて語りかけます。

★2016年のおすすめ

- 『ぼく、ムシになっちゃった』（E黒）
- 『青い鳥文庫ができるまで』（K020イ）
- 『お金持ちになるにはどうするの？』（K330オ）
- 『10分で読める発明・発見をした人の伝記』（K402シ）
- 『煮干しの解剖教室』（K487コ）
- 『よみがえる二百年前のピアノ』（K763オ）
- 『言葉屋』（K913ク） 『ニコラといたずら天使』（K933ア）
- 『夏の魔法』（K933ハ） 『14番目の金魚』（K949ス）



イワンの馬鹿



レフ・トルストイ/著
あすなる書房
K983ト

📖 物語

イワンには、軍人のセミヨン、ほてい腹

のタラスという2人の兄、それに父、妹の家族がいます。2人の兄は結婚して家を出ており、農家を継ぐのは一番下のイワンでした。そんなある日、3人の悪魔がイワンの兄たちに災難をふりかけて困らせます。その災難は、次第にイワンにまでおよんでいきますが…。

いつも心の中に



小手鞠るい/作
金の星社
K913コ

📖 物語

突然の父の死に、悲しみのあまり学校へ行けなくな

ってしまった6年生のみずき。夏休みの間、アメリカに暮らす伯母の家に預けられることになりました。アメリカのみずきが通うことになったのは「森の学校」。クラスメイトが動物、校長先生はヤギという少し変わった学校です。その「学校」でみずきが学んだこととは…。

新13歳のハローワーク

村上龍/著 はまのゆか/絵 幻冬舎 K 366 ム



 知識

将来になりたい職業はありますか？
得意なこと、好きなこと、あこがれていることがあれば、それが大人になって仕事に結びつくかもしれません。でも、そのためにはどんな知識や資格が必要なのでしょうか。
本のタイトルは「13歳の」とありますが、気になる職業があったらすぐにでも読んでみましょう。

リリコは眠れない

高樓方子/作 松岡潤/絵 あかね書房 K 913 タ

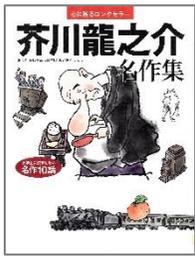


 物語

兄妹に劣等感を抱えながら暮らすリリコ。ある夜、眠れないリリコが壁に飾ってある絵を見ていると、そこに突然いなくなった友だちの姿を見つけます。おどろいたリリコが絵に手をさしのべると、からだがちびばられ、絵の中の世界に入り込んでしまいます。
こうしてはじまったリリコの旅。旅の果てにリリコが見たものとは？

芥川龍之介名作集

芥川龍之介/著 鬼塚りつ子/責任編集
世界文化社 K 913 ア



 物語

生前、さんざん悪事をはたらいてきたカングダですが、蜘蛛を助けたところを見ていたお釈迦様の慈悲により、地獄から抜け出すことができそうでしたが…。（「蜘蛛の糸」）
「蜘蛛の糸」のほか「杜子春」、「魔術」など 10 作品を収録。すべての漢字にふりがなつき、難しい漢字や言い回しにも解説がついており、とても読みやすい一冊です。

ぼくが消えないうちに

A. F. ハロルド/作 エミリー・グラヴェット/絵
ポプラ社 K 933 ハ



 物語

ラジャーはアマンダの親友で、アマンダはラジャーにとってただ1人の友達だ。なぜならラジャーは、アマンダが想像して作りだした友達だから。
ふたりはいつも一緒に楽しい時間を過ごしていたけれど、ある日アマンダの家に奇妙な男・バンティング氏がやってきて…。

さすらい猫ノアの伝説

重松清/著 講談社 K 913 シ



 物語

5年生の健太が授業中に外を見ると、黒猫がいます。窓から飛びこんできた黒猫・ノアは、風呂敷を首に巻き、「あなたのクラスはノアに選ばれました。ノアはきっと、あなたたちのクラスが忘れてしまった大切なことを思い出させてくれるはずです。」と書いてある手紙を持っていました。さて、5年1組が「忘れてしまった大切なこと」とは、何だったのでしょうか？

テオの「ありがとう」ノート

クロディーヌ・ル・グイック=プリエト/作
PHP研究所 K 953 ト



 物語

生まれつき障がいがあり、ずっと車いす生活のテオ。ある日テオは、自分が障がいを持って生まれたために、普通の人達よりも多く「ありがとう」や「すみません」を言っていることに気が付きました。
「こんな不公平じゃないか！」とテオはその日から自分でできることを増やし、「ありがとう」を言わない生活を決意しますが…。